



立正佼成会ニューヨーク教会

320 East 39th Street, New York, NY 10016 TEL: (212) 867-5677

E-mail address: koseiny@aol.com, Website : <http://rk-ny.org>



ニュースレター2021年 12月号

皆様こんにちは、いかがお過ごしでしょうか。

2021年もあと1ヶ月を残すことになりました。

COVID-19がパンデミックとして世界各地に広がり、早2年を経とうとしています。

その後ワクチンが開発されその接種が進んでいますが、十分に効果が出た地域と感染拡大の収まらない地域とさまざまな様相を呈しています。

この2年近くでたくさんの方が亡くなり、また入院加療中の方も大勢います。

まずもってCOVID-19の感染により尊い生命を亡くされた方々へのご冥福をお祈りし、現在入院中の方々、自宅で療養中の皆様に対し一日も早い回復をお祈り申し上げます。

今月12月は立正佼成会にとって2022年次のスタートの月であります。

開祖さまは世の中が1月1日より年度が始まります前に12月から新年度の準備に入り新年をスムーズに迎えようとお考えで12月を年次始めの月とされました。

そこで11月中旬には教団幹部指導会が開かれ次年度の信行方針や諸計画が発表され、会長先生から心構えを頂戴しております。会長先生はそこご指導の中で、コロナ禍にあつての私たちの修行のあり方が示され即是道場の精神を大切に、こうした環境にあつてより内省を深め自己の信仰を家庭や社会の中で実践し、前向きな姿勢で取り組みましようとお言葉でした。

光祥さまもこれからの抱負を述べられましたが、その中で印象深かったお言葉は、私は法華経を学んで多くを知っていると語ることも、どれだけ法華経を生活や人生の中で身につけて実践できるか、「法華経を生きる」私たちでありたいと力強く語られたことです。

その時私が思い起こした、良く語られた平和活動のことばに、「世の中に平和を目指す人は多くいるが、平和 平和と語るだけのPeace Speaker, 平和に向けてお金だけ出しますというPeace Payer, ではなく真に平和に向けて足元から実践できるPeace Maker, になろう！」と言う言葉でした。法華経を生きる実践者という在家仏教の精神です。

指導会では教会長人事の発表も行われ新しくなられた方、退任された方の名前があげられましたが、アメリカなど海外布教に関する異動はありませんでした。本部役員ではこのたびNY教会の杉野恭一さんが新たに学林学長として教団幹部育成の任に就かれることとなりました。

23年間RfP (世界宗教者平和会議 国際委員会) NY本部で副事務総長として重責を果たし世界平和実現に向けヨーロッパ、中東、アジアを駆けめぐりまさにPeace Makerとして尽力を尽くされました。今後は開祖さまが目指された世界平和を担える若き人材の育成に力を注がれることと思います。

杉野夫人でありますユリさんも同時に帰国となりますが、これまでNY教会の総務部長としてお役を務められ教会の運営全般にわたる下支えを長年にわたり貢献くださいました。
今回の人事異動では本部の国際伝道部（RKI）の所属となり活躍されることとなります。

とは言え、これまで教会運営上大切な部分を担ってくださったので簡単に引き継ぐことは困難なことです。今後本部との調整で国際伝道部に身を置きながら一部NY教会の仕事もカバーしていただけるように要請・懇願するつもりです。実際の帰国は3月ごろを予定していますので多少時間をかけてその準備を進めたく思います。

23年間という長きにわたり活躍いただき、数々の思い出が皆様もあることと思いますが杉野夫妻のあらたなる出発に感謝と祝福をお贈りしたく思います。

私も思い起こすと23年前にNY教会長として2人をお迎えし、時を経てお見送りを再度NY教会長としてさせていただく不思議なおはからいを感じます。

私たちは日ごろ「諸行無常」とか「愛別離苦」と学んでいますが、「変化」を受け入れることの難しさも実感いたします。しかし変化そのものには良し悪しはなくその受け止め方だとも教えていただきますので、この変化を極力ポジティブにとらえ私たちが前進するエネルギーとして新たな一歩につなげて行きたいと思っております。

人間万事塞翁が馬（じんかんばんじさいおうがうま）と言う中国のたとえがあります。中国のある村に親子が住んでいました。ある時飼っていた牡馬がどこかに逃げ出してしまいました。父親は息子よ嘆くな、またいい事も起きるよと言いました。しばらくするとその牡馬が一匹の雌馬を連れて戻りました。息子は喜び馬で駆けめぐっていると落馬をして足が不自由になってしまいました。父親は息子よ嘆くな、何が禍か福かになるかは分からないと言いました。やがて戦争が始まり村の若者は戦争に引き立てられ皆戦死しました。しかしその息子は足が不自由なため戦地に行かずすみ、難を免（まぬが）れました。

と言う話ですが、NY教会にとっての大きなピンチではありますが、次へのチャンスと受け止め今月は本年をゆっくりと振り返りながら、来年のNY教会40周年記念をむかえる英気を養いましょう



合掌

ニューヨーク教会長
畠山友利